人・もの・ことの“つながり”を大事に

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

過去の「共に歩まん」はこちら→

←過去の「マナビィ通信」はこちら

令和７年６月６日発行
第６号
中信教育事務所

令和７年度　第１回研究推進講座 ～チャレンジする研究主任～

５月27日(火)に「第１回研究推進講座」が行われました。前半は、木祖村立木祖小学校の石川和広先生、松川村立松川中学校の岡田早耶香先生、海沼千佳子先生をパネリストに迎え、「研究主任としての取組」についてパネルディスカッションを行いました。後半は、本年度の「チャレンジ」についてグループ毎に情報交換を行い、１年間の見通しをもったり、研究推進につながる手がかりを得たりすることができました。

研究主任２年目。まずは研究を「自分事として捉える」ことからスタートしました。「みんなで進める」を念頭に、システムづくりや見通しをもてる工夫に着手しながら、研究を進めています。

昨年度、一人一人に研究の意識を高めてもらえるよう、個人研究テーマの設定、一人一公開、グループによる参観などを行いました。指導案の簡略化、情報共有の在り方について、手応えを得られました。

岡田先生から研究テーマ、グループによる研究体制などを引き継ぎました。さらに発展させるために、目指す子供像を具体化し、「個別最適な学び」に重点を置くことを決め、取組を進めています。

石川先生

岡田先生　海沼先生

フロアでも活発に意見が交わされました。

ＩＣＴ活用は、働き方改革にもつながるな。

５分、10分でも授業を見合う時間をとれるといいな。

研究には先生方とのつながりが不可欠だ。

「みんなで教材研究」面白そうだ。

学校教育目標を改めて共有して、スタート地点を再確認しよう。

目指す子供像の共有からスタートしてみよう。

参加された先生方より（今後の見通しやチャレンジ）

明日からまた研究主任を頑張ろう！と思える会でした。先生方の話を聞く中で、「これならうちの学校でもできそう」「やっぱり無理なく持続可能な取組がいいよね」などと、前向きになれました。

やっぱり研究は楽しいものでないといけないし、持続可能でないといけないと思いました。授業をした先生が得をするようなアイデアを教えていただいたので、早速やってみようと思います。

一人一公開を行った時の授業者の先生へのフィードバックの方法を工夫したいと思いました。チャットの活用、動画の活用、感想を伝え合う時間の確保など、今年度の重点研究を行う際に活用していきたいと思いました。

「これをしなきゃ」「もっとこうすべきだ」と考えていましたが、もっと校内の先生と話をして、先生方が感じている課題、どんな子供に育ってほしいかという願いを共有する場、一緒に考える時間をもちたいと思いました。

「もっと話したかった！」そんな声が多く聞こえた研修でした。話題提供を受け、自校の取組と重ねながら、積極的に情報共有したり、新たなアイデアを出し合ったりする研究主任の先生方の姿が印象的でした。きっと校内でも対話の渦を巻き起こし、さらに研究を推し進めてくださることと思います。中信教育事務所も、学校訪問等を通して伴走させていただきます！次回の研究推進講座は１月。各校の１年間の歩みを持ち寄って、語り合いましょう！

オンライン相談支援も活用してね！